

図1. 1729年8月1日（享保十四年七月七日）以降の地震の記録地点（赤丸）と倒壊率分布（数字、%）。倒壊率は『真偽一統誌』に書かれた被害状況をもとに、（全潰軒数+半潰軒数÷2）÷総軒数として計算されたもので、宇佐美（2020）による。

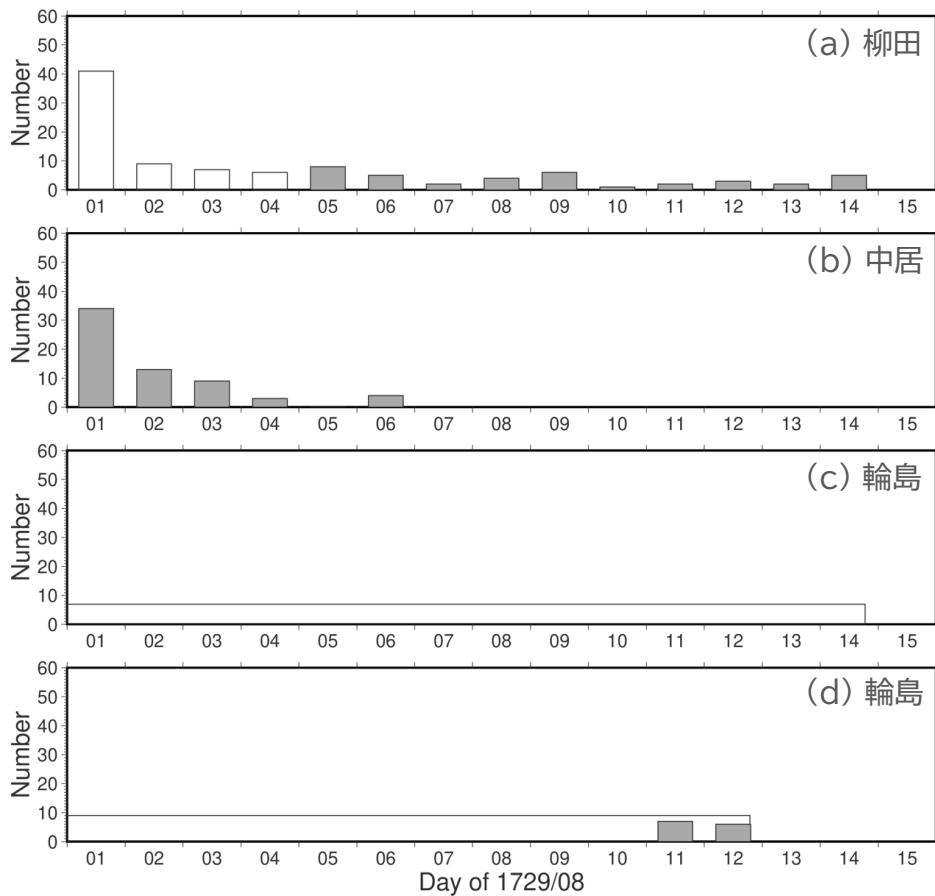


図2. 1729年8月1日（享保十四年七月七日）以降の地震発生数（有感記録数）。

- (a) 能登町柳田（『真念寺鬼籍帳』『柳田村史』）
- (b) 穴水町中居（『加賀藩記事類編』『菅家見聞集』）
- (c) 輪島市（『重蔵宮奉加帳』）
- (d) 輪島市（『加賀藩記事類編』『菅家見聞集』）

灰色の棒グラフは史料中に地震発生数が明記されているもの。6～7回などと記されている場合は多いほうをとった。白色は「一日中」「折々」などと定性的に書かれているものや、ある期間の回数を1日あたりの回数に換算したもの。輪島市（『重蔵宮奉加帳』）では毎日4～7回、輪島市（『加賀藩記事類編』）では1日から12日まで大小100回余りと書かれている。